

地元の生き物を守りたいと 子どもたちが主体的に活動

〈旭山自然調査隊〉は、札幌市の旭山記念公園「森の家」を拠点に、自然観察や調査、環境保護に取り組んでいます。

生き物の多様性を守るために、子どもたちが大人の協力を得ながら主体的に活動しています。



総合学習「旭山ウォーカー」
毎年150名ほどの児童が公園を訪れる現地学習は、「隊員の想いや活動内容を多くの人に知ってもらいたい」との願いから実現

誕生の経緯もあり、同隊の活動はいつも子どもたちが主体。発足の翌年から同隊の支

援を得ることで、架空だった団体は実質的な活動を開始。観察会の日程や活動報告を記事にする月刊「旭山新聞」の発行後もなく、活動場所が一目でわかるよう発行団体名を旭山自然調査隊と命名したこと、同隊が正式に発足しました。

同隊の起源は、隊長を務める高橋温史さんが、小学2年の時に名刺づくりの授業で肩書きとして創作した「自然調査隊」。当時、旭山記念公園に残る日本の国蝶オオムラサキや、旭山の森に住むさまざまな生き物の話を聞いたばかりで、「森の探検や調査を試してみたい」と高橋隊長は振り返ります。

始まりは小2の探究心

子どもたちの 想いが詰まった活動

援のもとで行われている緑丘小学校4年生の総合学習「旭山ウォーカー」は、通学する小学校の校長先生に発足メンバーが活動の相談をしたことが契機となつて始まりました。内容は、専門家の講演と現地学習での体験からの気づきを自ら調べ、新聞にするという同隊の活動そのもの。この授業をきっかけに入隊する児童もいます。

旭山自然調査隊

REPORT 02
5歳～12歳の隊員17名、保護者15名、顧問10名で活動。
今年日本アマガエルの産卵観察を計画中。
2020年札幌市子ども環境コンテスト最優秀賞受賞。

REPORT 02



特級隊員のみなさん
左から、近藤隊員、米倉隊員、高橋隊長、大友隊員、石黒隊員

今年10月で設立5周年の同隊。その確かな歩みは、発足年に植樹して大きく育った樹木や、多数設置された隊員作成の看板などからも伝わります。今春、主要メンバーが中学に入学。次期隊長を受け継ぐ小学生隊員は七田淳君に決まりました。中学生メンバーは特級隊員として今後もしっかり、活動の幅を大きく広げてくれる予定です。

5年目のステップアップ

隊員の関心や気づきを掘り下げ、調べていけるような活動計画を立案。調査・保護活動と自然体験プログラムを連動させ、継続性のある取組を行っています。



5年前に植えた木の前で
生き物の越冬用に落ち葉を貯める枠を造り替え
右から2番目が七田新隊長



里山づくり
在来の樹林を守る活動



水辺の調査
円山川源流での
生き物調査の様子

森と人をつなぐ実績を積み、 目指すは現場発の森林政策

〈もりねっと北海道〉は、「森を生かす」「森と人をつなぐ」を活動テーマとするNPO法人。都市機能と豊かな森林を併せ持つ地元・旭川市の特色を生かし、市民参加型の多様な活動を行っています。

旭川モデルの公園運営

同法人は、大学の林学科で学び新聞記者として多様な声を聞いてきた山本代表と、芸大の建築科で学び森林組合で現場作業にも従事した前代表の陣内雄理事の出会いから生まれました。「画一的な補助金と上意下達の林業政策を変えたい」と意気投合。熱い志がさらに仲間を引き寄せ、NPO法人設立に至りました。

同法人は、大学の林学科で学び新聞記者として多様な声を聞いてきた山本代表と、芸大の建築科で学び森林組合で現場作業にも従事した前代表の陣内雄理事の出会いから生まれました。「画一的な補助金と上意下達の林業政策を変えたい」と意気投合。熱い志がさらに仲間を引き寄せ、NPO法人設立に至りました。



ツリーテラス作りは、木を選び、間伐して皮をむくことから始まる（森薪塾）

もりねっと北海道

REPORT 01
100名近い会員は、ボリューム層がシニアから20～40代に移行。市外からの参加者も多数。さまざまな活動を通し森林政策に意見できるような目の肥えた市民を養成中。

REPORT 01

受託事業のほか、市民向けのサービス事業も展開しています。「薪倶楽部」では、薪ストーブ愛好家に原木と薪割

多様な混交林に誘導するよう試み、ヒグマ対策では自動カメラや痕跡調査を組み合わせて、どんなクマがいつ公園内に入り込んだかを把握して安全を確保。多様で複合的な旭山の運営方式は「旭川モデル」として知られ、高い評価を得ています。

森をまるごと楽しむ体験



森の将来像を思い浮かべ
間伐する木をみんなで選ぶ

りの共用スペースを提供。「森薪塾」では、森づくりの基本を指導し、焚き火料理などを楽しんでいます。昨年はツリーテラスを造作。適した材はどれか、森を良い状態で保つにはどの木を切ればいいのかと、伐採技術だけでなく森全体を考えて行う選木・間伐から搬出・資源利用までの一貫した体験が好評でした。

森をデザインする技術

今後強化していきたい事業は森林所有者対象の「森の相談」と山本代表。目指すのは、森の現状と所有者ニーズに応じてデザインする注文住宅のようなきめ細かい森づくりです。実績を積みマネジメントスキルを高め、設立時に志した政策提言へ着実な歩みを進めています。